

明海大学不動産学部

# 不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第478回

## 【学生の目】

大学の課外授業の一環で大分県玖珠郡玖珠(くす)町に出掛け、1泊2日の体験学修を行った。玖珠町は大分県中西部に位置して熊本県に接し、人口は約1・6万人である。伐株山に登ると、玖珠川沿いに開けた「童話の里」の景観を一望できる(写真)。

## デジタル時代におけるアナログの魅力

# 強い「体験」が五感を刺激

学修のために地方都市に行くのは初体験で、玖珠町を訪れるのも初めてである。都会育ちの筆者の最初の印象は、どこにもありそうな普通の「田舎」であった。

しかし、その後いろいろな場所を案内してもらうと不思議と玖珠町に愛着が湧き、この町のために何かできることはないだろうかと考え始めた。

愛着が湧いた第1の要因は、玖珠町を体験したことである。現地に行き、都市の風土や文化に触れ、観光地を見たり、歴史を聞いたり、地域の料理を食べるなど、玖珠町を五感で体験した。特に、現地に宿泊し、

訪れる場所の歴史や特産物の一つ一つが課題を整理する鍵にならないかと、常に頭の中で考え続けていた。情報を捉えるアンテナの感度が高い状態にあったが、情報を受ける側の感度が高いと、より良い情報を提供していただけの好循環が生まれることを学んだ。

近年、SNSの発達により、行ったことのない場所を見たり、遠くの話聞くことができるようになった。五感のうちの視覚と聴覚から情報を得ることが容易になったが、残

りの触覚、嗅覚や味覚などは現在のSNSでは対応できない。これらはいまだアナログに依存し、現地で体験するしかない。「現地に行く」という「体験」が最もリアル、かつ、強く五感を刺激する。

事前にインターネットで玖珠町のことを調べた。デジタル時代の便利さを享受したが、現地で、「デジタル時代におけるアナログの魅力」を

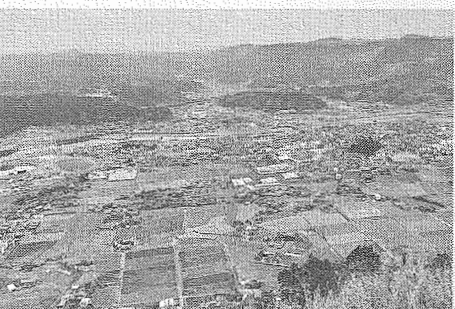
学んだ。同時に、町役場をはじめ飲食店や美容院などの店舗型ビジネスが、アナログの魅力を伝えるためにデジタルを駆使していることも分かった。ここにストックの有効活用のヒントがあると感じる。

## 【教員のコメント】

20世紀初頭の英国で、都市と農村の良いところを持つ人口3万人程度の職住近接の市街地をグリーンベルトが囲む田園都市が誕生した。10

年を経た日本のデジタル田園都市は、都市の若者と地域住民の良さを効活用とまちの活性化を考えること

0年を経た日本のデジタル田園都市は、都市の若者と地域住民の良さを効活用とまちの活性化を考えること



デジタルでは体験できない嗅覚や味覚などの刺激が、現地を訪れる最大の魅力



中村 諒人

不動産学部4年